

応能力を高めることが必要だと考え、原則として冷暖房のない教育環境の中で学校生活を送ることとしている。

そのような中、普通教室へは壁掛式扇風機の設置を進めており、平成30年度までに、全ての小中学校に設置したいと考えている。

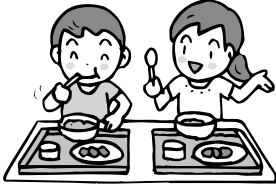
なお、学校ごとに状況が異なるため、定期的に気温や湿度の測定などの現状把握を行い、必要に応じた対策を講じながら、よりよい教育環境づくりに努めたい。

大型学校給食センターの建設

問 一極集中になる大型給食センターの建設ではなく、既存の施設を改修して継続させる方が保護者も安心できるのではないかと。

答 現行の給食室では、調理器具の有無により献立内容に学校間の違いがある、食物アレルギーへの対応、施設等の老朽化などの課題があり、これらを解決するため、給食施設を集約し、学校給食センターを整備することとしている。

学校給食センターでは、エアシャワーやエアカーテンの設置による異物のチェック体制の強化や調理ラインの複数化などによるリスク管理を



行うこととしており、今後とも、将来にわたって安全で安心なおいしい給食を安定的に提供できるよう、新たな学校給食センターを建設し、学校給食の充実を図っていく。

チーム2020

V・ファールン長崎への支援

問 施政方針では、ことしからJ1を舞台に活躍が期待されるV・ファールン長崎を応援することが表明されたが、具体的な支援策を伺いたい。

答 長崎市では、子どもたちにトップレベルの試合を間近で見られる機会の提供やホームゲームを盛り上げることで市民のスポーツへの関心を高めるとともに、長崎市の魅力発信を行うため、平成25年度からV・ファールン長崎応援事業を実施している。

この事業では、小中学生と保護者をホームゲームへ招待しているほか、ハーフタイム中の特産品抽選会の実施、会場周辺での観光ブースの出展など長崎市のPRも行っている。

J1昇格に伴い、より高い事業効果が見込まれることから、平成30年度はまち全体で応援するための機運醸成やアウェーサポーターに対する長崎市のPRも含め、事業を拡大し実施することとしている。

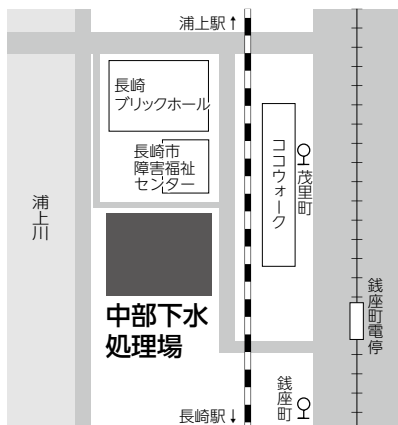
中部下水処理場の跡地活用

問 5年後に操業停止となるが、解体費用の具体的な内容と跡地活用の検討状況について伺いたい。

答 中部下水処理場は都心部と利便性の高い公共交通で結ばれた場所に位置しており、機能停止後の跡地は都心部にぎわいと活力を支える地区として、長崎市の将来を見据えた上で有効な活用方法を見出す必要がある。

平成29年度は、地上構造物、地下構造物、杭基礎に分けて施設撤去費を求め、跡地活用のパターンごとに撤去範囲を組み合わせて概算事業費が算出できるよう調査を行っている。また、既存施設を雨天時の流量調整池として一部活用できないかななどの検討や、浦上川護岸に隣接した建築物の撤去に伴う護岸への影響や安全性に関する技術的検討を行っている。

これらの結果を踏まえ、全庁的な議論の中で検討を進めたい。



▲バス停や電停の近くに位置しています

自由民主党

金比羅公園整備の進捗

問 これまでに展望台やハタ揚げ広場などの整備が行われているが、最近は目に見える整備が進んでいないように思われる。現在の進捗状況を伺いたい。

答 金比羅公園は、ハイキングやハタ揚げ大会が開催されるなど、市民が自然に親しむ場として利用されている。

一方、車が通行できる道路がなく、イベント時の交通アクセスや緊急車両が進入できないなどの課題があり、取りつけ道路の整備を進めていたが、平成28年度に用地買収が完了したことから、平成29年度は園路整備に着手し、平成30年度も引き続き整備を行う予定である。

今後も公園整備を推進し、当初計画の基本的な整備方針どおり、緑豊かな自然環境を生かした、家族連れでも楽しめる公園として、2021年度の完成を目指して努力していきたい。



▲金比羅公園のハタ揚げ大会